

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4390800185		
法人名	有限会社 あい		
事業所名	グループホーム大道		
所在地	山鹿市方保田828-2		
自己評価作成日	令和3年1月31日	評価結果市町村受理日	令和3年3月29日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 あすなる福祉サービス評価機構
所在地	熊本市中央区南熊本三丁目13-12-205
訪問調査日	令和3年2月19日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

コロナによる外出や面会制限など利用者がストレスに感じる現状もありますがこれまでと同様にご家族への報告や連絡はこまめに行い想いをしっかりと受け止め信頼関係を築くことは継続して心掛けています。予防拠点や生活支援コーディネーターの活動などの継続により地域とのつながりも継続できています。利用者の「今」の気持ちを尊重し向き合い一人一人の個性を大切に誰もが安心できる場所を目指します。看取りを重ねていく度にスタッフは「人の命」や「その人らしさ」「認知症介護の基本」について振り返り経験値をあげています。利用者のご家族が「大道で良かった」と思ってもらえるように利用者と共に精一杯毎日を過ごしています

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

今年度はコロナ禍という言葉が常に飛び交う日々であったが、今回の訪問でも入居者の安定した表情や笑顔と笑い声は変わることのない光景であった。全職員が入居者の思いや願い、暮らし方の意向を掴み、一人ひとりのペースを重んじた支援を共有しており、職員の聞き取りからも「このホームだから思いに伝える介護が出来る」「自身の親にもいい介護が出来る」などの言葉が聞かれホームで働く事への誇りが伝わってきた。終末期の対応においては、先ずは本人・家族が求める支援に努めており「車を見に行きたい」との要望に、地域の車輛販売店、営業社員の協力により、大好きな車を見ながら説明を受ける等心に残るひと時を過ごされたようである。志を一つにした職員により継続した支援が行われることを願いたい。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	基本的な考え方に関してはスタッフも意識できている。働き始めて日が浅いスタッフは少し時間が必要である。理念の振り返りを年度末に行う予定	「その一瞬一瞬を大切に共に生きる」とした理念には、ホームを地域にある一軒家として入居者との日々の生活を尊び、支えながら共に歩むことを謳っている。新たに入職した職員へはホームの取組を通じて理念に触れ、日々の振り返りや、年度末には入居者一人ひとりへの支援に対して評価の機会を持っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域のサロンに出向いたり、区役、寄り合いへの継続した参加。正月の地元の神社へのお参りを行う、小学生の下校の声かけ(時々)祭りは利用者の重度化及びコロナのため中止	コロナ感染症の拡大により、地域との交流行事が中止となる中、対策を講じながら地元のサロンに出向いたり、地域の清掃活動には職員が参加協力している。本年度は新たに開所したグループホームの研修の受け入れ先として、地域貢献に努めている。毎日ではないが、下校中の小学生への声掛けも定着しており、入居者が自身の役割として喜んで参加されている。	例年開かれる秋祭りは地域行事の一つとして人々に認知され、毎回盛大に行われており、コロナ終息後の開催が待たれる。また、下校中の声掛けなども曜日や時間帯を決めて庭先で待つことで、継続した取組が期待される。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	介護予防拠点事業、サロン活動、生活支援コーディネーターとしての活動により今後の展開を模索中(コロナのため保留)		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナの影響により運営推進会議の実施が少ないが書類を配布し報告。会を実施出来た時にはご意見を頂き反映するように心がけている	昨年11月には人数を制限して通常開催とし、他は資料配布などによる書面審議で対応している。身体拘束についても会議の中でホームの基本的な考え方や、取組を紹介し、参加者にわかりやすい寸劇なども取り入れている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	報告、連絡、相談はこまめに行う コロナの対策についても早めに相談し対策を検討した	行政の運営推進会議への参加により、情報発信の機会とし、良好な関係を継続している。コロナ禍においては議事録送付によりホームの現状を伝えている。本年度はコロナへの安全対策や万が一にも罹患した場合の対応手順などについて質問に応じてもらっている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	定期的に会議を開催している。身体拘束に繋がりがやすすい不適切なケアについて検討し協議している スタッフへの周知を行っている	職員は拘束をしないことを前提としてケアにあたっており、入居者の言葉を否定せず、傾聴する姿勢をもって対応している。研修での事例検討や運営推進会議での啓発、報告などによりホームの透明性を図っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束及び虐待についての勉強会を定期的に行う 虐待や身体拘束に至るまでのスタッフの精神的な負担についてもみんなで検討しチームで利用者を支えるケアを心掛けている		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	山鹿市社協より講師を招き勉強会を実施した 必要に応じて相談できる機会になった		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	文書、口頭での説明の機会をもちご家族の心配や不安にはできるだけ対応している		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族からのご要望やご意見を聞いた時には記録に残しスタッフ間で共有するようにしている。 外部への報告が不十分である	運営推進会議の通常開催の中止や、面会が制限される中、家族と直接会話する機会が少なくなっている。職員は家族にホームの様子を見てもらえない事を残念と感じており、電話でのやり取りから意見や要望の引き出しに努めている。入居者の中には早く外出して好物を食べたいなどの意見があがっている。	管理者は家族との接点が少ない時だからこそ、便りの中に入居者の日常の一幕を発信していきたいとしている。今後の取組が期待される。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員とはこまめにコミュニケーションをとるようにしているが最近では役員が来られる頻度が減っているため管理者がスタッフからの意見を報告するようにしている	職員には普段から意見を出してもらいながら、常に話し合う体制が出来ている。管理者は職員とのコミュニケーションを大切にしており、勤務体制の変更や悩み事など個別の相談に応じ、精神へのフォローを心掛けている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	定期的に評価を行う。必要時には面接を行っている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月事業所での研修を実施している。今年度はそれぞれのスタッフで研修内容を受け持ち研修を実施した		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナ禍のため直接会う頻度は減っている。Zoomやスカイプを活用し研修への参加を実施している この度のコロナ感染に係る応援事業へも参加した		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	コロナ禍で以前のように事業所に何度も訪問を重ねることが難しくなっているため今までのように顔見知りの関係に至ることは難しかった		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービス導入前にサービス事業所へ出向き情報収集したり主治医へのあいさつなどご家族と一緒に伺うことでご家族の安心につながっているように感じる		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	面会の制限もある中で本人、ご家族に安心して頂くために何が必要か・・・をしっかりと考え対応している。サービス導入時にはこまめな報告を心掛けている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	スタッフは利用者の得意なことを見極め引き出す様に心掛けている。認知症ケアを通して自分たちの人生勉強につなげているスタッフも多い		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	入所する時点でホームにお願いされるだけでは本人を支えることにはならないと説明させて頂く。ご家族の存在は本人にとってかけがえのないものであり一緒に考え介護をしてくスタンスを大事にしている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	基本的には事前にご自宅に伺い本人が過ごした空間やなじみの場所を大切にするようにしている コロナ禍において継続が難しい事が増えた	コロナ禍にあり家族をはじめ入居者にとって身近な人々の来訪の機会を制限せざるを得ない現状であるが、職員は努めて報告の機会を持っている。ホームでの生活の中で、日課となっている敷地内の散歩や仏飯を備えるなど、個別での支援も継続している。離職も殆どなく馴染みの職員により、変わらぬホームの姿勢を大切にされた支援は入居者の安定した日常につながっている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	認知症の重度化により意思疎通が困難になってきている利用者に対しても開設当初より共に過ごす関係として存在を認め声をかけて下さる関係性がある		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	看取りを終えてからの退所の方が主であるため命日には連絡をさせて頂いたり年賀状のやりとり、行事の時には案内を出すなどして関わりを継続させて頂いている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	年々重度化が進み意思疎通が困難になられた方が増えているが元々の性格や好むこと、好まないことを大切にしながらケア内容は検討している	入居者の高齢化や重度化が進む現状であるが、職員は日々の関わりの中で信頼関係を築き思いや意向の把握に努めている。また、感染症の影響により以前より電話連絡などから状況を伝える機会が増えており、入居同様信頼関係のもと、意向などを確認し、本人・本位のプランに繋いでいる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	例え意思疎通が困難になっても「その人」を大切にしたいケアを心掛けている 新たな入居者に対してもそれまでの暮らしや「人となり」の情報を集めケアに役立てている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	本人の発言や表情などを大切に記録に残し共有するようにしている その方に応じた認知症の症状の把握に努めている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	レビー小体型認知症の症状が出始めた利用者に関してご家族よりその時代の情報を集め利用者の状態に即した対応をするように心がける。ご家族の協力も頂いている	プラン作成には全職員が関わっている。入居間もない方の初回プランを当面の介護計画と題して、これまでの生活から得た情報をもとに作成している。2ヶ月間のホームでの暮らしぶりを全職員の気付きから、本人に馴染みのある名前で「○○ちゃんのケア」と題し、詳細に支援内容を決定するなど細やかなプラン作成が行われている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	経過記録とは別に内服変更や状態の変化に伴い記録をより細かくとり状態を見極めスタッフ間での共有につなげている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ターミナル期を迎える時にご家族の希望に応じて訪問看護と連携しお墓参りに行ったり、本人の希望は出来るかぎり叶えるような対応をしている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	以前の習慣で競馬を好む利用者が馬券を買いにでかける際のスタッフが気付かず付き添いがいない時には地域の方から連絡が入ったりする。 移動図書からは利用者の好みに応じたお勧めを持ってきて頂いている		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	基本的には入所前のかかりつけの継続を願っている。看取りを希望される方の中には主治医へ相談し対応可能であるかによって別の先生に協力を頂くこともある	本人・家族の希望するかかりつけ医を継続して支援しており、現在は、コロナ感染症への対応として、職員が相談に向いたり、定期や必要に応じて往診も行われている。受診は基本的に家族の対応としているが、医師への現状や情報を伝える事が困難であると相談される方もおられるようである。歯科については必要に応じ往診による治療を受けられている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護と契約している 週に1回の健康チェックはもちろん日々の健康に関する不安など相談や看取りの際の協力も大きい		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	1年間ほど入院に至るケースはみられていないが入院時サマリーを準備したり面会や食事介助、洗濯物を受けたりと多くの情報収集の場をつくる努力をするがコロナ禍では難しいと考える。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所の時点と状態が変化した時には終末期に関しての意向を確認するようにしている 本人への確認は信頼関係を築いてからでないと難しいと考える。日々の会話からの意向の確認をひろえるように心がけている	重度化や看取り支援については、入居時や必要に応じてその都度話し合いの機会を持っている。また、本人の意向については信頼関係を築いたのち、または、言葉で確認できなくともこれまでの関係性から思いをくみ取りながら、本人の選ばれる最終を支援している。看取り支援の後は、本人を偲びながら振り返りの機会を持つ事で、本当のホームでのご縁を感じる事が出来るとしている。	医療が必要になった方への対応など不安を抱える職員の気持ちにも、管理者や法人関係者は細やかに配慮している。普段の関わりを大切にしているホームであり、今後も変わらぬ支援が継続されていくことを期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	以前は消防署から来て頂き訓練を行ったがコロナ禍においては訪問看護からの協力を頂き緊急時の対応を学ぶ機会をもった。定期的実践を繰り返すことが不十分である		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災訓練は定期的実施しているがコロナ禍において地域の方をまじえた訓練は出来ていないため以前(数年前に実施)と同様可能になったら実施予定	今年度1回目の訓練は通報を主として実施しており、2回目は3月に予定している。コンセントの損傷(割れ)が見つかり大事に至らなかったことに安堵し、今後も細かな確認に取り組みたいとしている。運営推進会議の中ではワークシートを使用し、熊本豪雨の説明、withコロナ時代に考える事業所運営の在り方と災害対策など研修報告が行われている。	管理者は地域の協力による訓練がなかなかできておらず、区長さんとの連携なども含め今後の課題を語っている。実現が期待される。また、食備蓄については、食べやすさなど入居者に合わないものになってきているとしており、見直しの必要性をあげており取組が期待される。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	意思疎通が難しくなっても必ずゆっくり本人のペースで説明をしケアを行うことを徹底している	呼称は苗字や下の名、家族にも要望を聞きながら決定している。ホームの日常は一人ひとりのペースに合わせ、口頭だけではなく表情などからも本人の意思をくみ取り、共有を図りながら支援にあたっている。敷地内の散歩を日課とされる方にも見守りに徹し、この光景が変わらず続いていくことを願う職員の姿からもホームの姿勢が伝わってくる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	必ず意向を確認することを継続すると何らかの合図や意思表示をして下さる		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ホームはあくまでも利用者さんの暮らしの場であることを忘れずにケアをさせていただくことを続けている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入居前から使用していたお気に入りのシャンプー類、洗顔料、化粧水などを継続して使用するようにお手伝いしている。本人のこだわりを大切にしている		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	何を好まれるか・・・何なら食べることができるか・・・常に本人の様子を確認し対応できるように心がける。ご家族へ好みに関しての協力依頼や好物の持参(食べなれた健康食品など)して頂くこともある	本人の好みについては、聞き取りや日頃の支援の中で確認する他、家族の協力も得ながら、食事が栄養面に加え、楽しみなものとなるよう取り組んでいる。献立は季節感を取り入れ、地域からの差し入れ野菜なども活用しながらホーム内で調理されており、台所からの匂いや音は、入居者との会話のきっかけにもなっている。食形態もきざみやミキサー、ムース食など嚥下力に応じて準備され、現在は、コロナ感染症への対応として職員は食事支援の後、同じものを時間をずらして摂っている。	日々の食事は入居者の楽しみと、午後からの職員の力の源にも繋がっていると思われる。継続した取組に期待したい。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分チェック表を活用している。好物を楽しみながら摂ることも大きな力となるためお茶以外の水分もご家族の協力のもと準備している(甘酒・ぐんぐんぐルト・アクエリアス・カルピスなど)		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	ケア内容は個人個人で違う。舌ブラシの活用やスポンジ、小さなブラシなど用途により使い訳する 必要に応じて訪問歯科へ往診をして頂いている		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	利用者の重度化に伴いオムツを使用している利用者が増えている。利用者の体調や心身の状態に合わせて必要時にはトイレでの排泄支援を行う	日中はトイレでの排泄支援に努めている。オムツを使用の方もおられるが、排便の時はトイレへ誘導を行っている。夜間もトイレに行きたいと要望する方もあり、職員は誘導、見守りにより安心して排泄が出来るよう取り組んでいる。便秘への対策として乳製品の利用や腹部マッサージの他、ホットパックを活用している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	飲むヨーグルトやミキプルーン、ヤクルト（個人購入）などを活用したりホットパックや腹部マッサージで排便を促すように心がけている		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	本人の希望に応じて入浴の回数は決めているため毎日入浴される方もおられる一方身体機能の低下がみられる方は1~2/Wの時もある 希望があれば足浴などで対応することもある	入浴は殆んどの方が週2回入られているが、毎日楽しめる方もおられる。また、高齢から体力的にきつくなられた方は、週1回の支援になってきており、更衣をはじめ清拭などにより清潔保持に努めている。希望により足浴や色や香りを楽しみめる入浴剤の使用、季節湯（菖蒲・柚子）も継続して支援している。	管理者は入浴を楽しむという点では、体力が落ちてきている話している。今後も回数や入浴時間など個々の要望を尊重しながら入浴支援に努めていかれることを期待したい。
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	みなさん歳を重ねると共に睡眠時間が長くなってこられた。起床時間はその方のその日に応じて決めていない。安眠できるよう湯たんぽや加湿器、玄米パックなどを活用している		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の説明書をファイルしスタッフは確認できるようにしている 薬の変更時には受診時の様子など記録に残し共有している		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	現在は一緒に外出することも難しくなっているため楽しみを見つけ方は模索中である。 スタッフが買い物に行く時には希望を聞いたりすることは継続している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	前の項目にもあったように馬券を買うつもりで出かけたり、自宅に帰りたい時や両親におかずを買っておかなくてはならない・・・など本人の気持ちに沿った動きにできるかぎり対応している	ホームは入居者一人ひとりが地域の一人として活動する場を提供しており、選挙権の行使も後押ししている。要望があれば職員が散歩に付き添い、本人の体力に応じて車の迎えを連絡し、さりげなく乗ってもらう等、気持ちを損なわない対応に努めている。今年の初詣はコロナ禍にあり、職員が代表して参拝に出かけている。コロナ終息後にはビッフェ外食を待たれている入居者もおられる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族の協力と同意を頂き所持されている方もいる。ひ孫さんへのお小遣いや自身の買い物に使用されている		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族からの手紙は同意を得て代読したりお届け物が届いた際には(季節の果物など)本人が希望すれば直接話をして頂くようにしている		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の花、看取りを終えた利用者が残してくださった作品などを車イス目線の高さで飾っている。 感染症対策として常時換気を行い空気の流れに気を付けている	身近な草花などを共用空間に飾りながら季節を感じてもらえるようにしている。訪問中も食堂を兼ねたりリビングからは、入居者と職員の笑い声が聞こえ、ホームの日常が伝わってくる。職員自身が大切な環境であることを、それぞれが自覚をもって日々のケアにあたっている。ホーム内は感染症への対策として、これまで以上に換気や掃除に努めてる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ウッドデッキや玄関先でゆっくり過ごされること時々あり環境は整えているが以前のようにお1人ですごされることは難しくなった		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居の時に相談して環境を整えている。入居後も自身で自宅に戻り必要な物を持参されたこともあった(衣類や寝具など)	入居時に使い慣れた品など家族と相談しながら居室環境を整備している。施設から入居される方は初めは持ち込みの品は少なく、その後必要な品(ひざ掛けなど)を随時持ち込まれている。入居年数が長くなられた方も多く、現在は全員がベッドを使用されるなど、身体状況に応じ見直しを行っている。居室へ戻る際遺影に向かって「お父さんただいま！」と声をかけ入室されるなど、以前と変わらぬ穏やかな時間を過ごされている。	面会を控えている現状であり、家族の安心に繋がるよう、居室の様子などについても報告されることも良いと思われる。
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	状況に応じて利用者の行動に合わせてトイレの扉を開けておいた自室の鍵を確認したりとそっと整えている		